

## 新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの重症化率等について

第90回（令和4年7月13日）  
新型コロナウイルス感染症対策  
アドバイザリーボード  
事務局提出資料

資料6

	重症化率 (注1)		(参考) 致死率 (注1)	
	60歳未満	60歳以上	60歳未満	60歳以上
新型コロナウイルス・ オミクロン株流行期 (注3、4)	0.03%	<u>2.49%</u>	0.01%	1.99%
新型コロナウイルス・ デルタ株流行期 (注3)	0.56%	5.0%	0.08% (注2)	2.5% (注2)
季節性 インフルエンザ (注3)	0.03%	<u>0.79%</u>	0.01%	0.55%

※季節性インフルエンザはNDBにおける2017年9月から2020年8月までに診断または抗インフル薬を処方された患者のうち、28日以内に死亡または重症化（死亡）した割合である。新型コロナウイルスは協力の得られた3自治体のデータを使用し、デルタ株流行期の場合は2021年7月から10月、オミクロン株流行期の場合は2022年1月から2月までに診断された陽性者のうち、死亡または重症化（死亡）した割合であり、感染者が療養解除した時点、入院期間が終了した時点、デルタ株流行期の場合は届出から2ヶ月以上経過した時点又はオミクロン株流行期の場合は令和4年3月31日時点でのステータスに基づき算出している。年齢階級別の重症化率においても概ね同様の傾向が見られるが、比較する際にはデータソースの違いや背景因子が調整されていない点等に留意が必要。

(注1) 重症者や死亡者の定義については以下を参照。新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの重症化の定義は厳密には異なっている点に留意。

新型コロナウイルス：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000929082.pdf>

季節性インフルエンザ：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000906106.pdf>

(注2) オミクロン株流行期については3月31日時点の報告に基づき算出しており、特に致死率について過小である可能性がある。

(注3) 季節性インフルエンザ・新型コロナウイルスともに分母に未受診者が含まれないため、重症化（致死）率が過大である可能性がある。

(注4) オミクロン株の亜系統であるBA.2やBA.5の流行期データではない点に留意が必要である。

<出典>

第80回厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 事務局提出資料 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000929082.pdf>)

第70回厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 事務局提出資料 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000892299.pdf>)

第74回厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 野田先生提出資料 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000906106.pdf>) を再集計

- 死亡率は徐々に低下。昨年の7月、60歳未満の重症化率・死亡率は季節性インフルエンザと同程度になっている
- 感染力はインフルエンザの5倍！
- 発症後10日は人にうつすリスクがあるので、その間はマスクの着用と、食事などの時に気を付けよう
- 感染者と濃厚接触をしたら、接触日から5日くらいはマスクの着用と、体調をいつも以上に気を付けよう
- 今シーズンのワクチン接種は5月7日で終了するので、接種を検討している人は早めに予約しよう
- 次のワクチン接種は2023年9月以降に開始予定
- 初回（1, 2回目）のワクチン接種は令和6年3月31日まで

死亡率は下がったけれど、  
感染力は強いよ。  
知らない間に広めないよう  
に、基本的な感染対策と、  
広めないための対策を続け  
よう

